



ともに Tomoni

外国人の友に、外国人と共に
東日本大震災の被災者の友に、被災地と共に

CTIC ニュース No.78 / 2013.07



難民による、難民のためのフリーマーケット開催中！

INTERNATIONAL DAY 2013
"Migration: Pilgrimage of Faith and Hope"
第20回 インターナショナルデー

Sunday, 22nd September 11am-4pm
St. Mary's Cathedral
9月22日(日) 11:00-16:00 東京カテドラル 関口教会 聖マリア大聖堂

12:00~13:30
International Mass 国際ミサ

11:00~16:00
Food Corner フードコーナー
Cultural Performances アートパフォーマンス
Consultation for Migrants 外国人相談
Flax Market フラックスマーケット

The World Day of Migrants and Refugees
The World Day of Migrants and Refugees is celebrated on the second Sunday of September and is dedicated to the needs and concerns of migrants and refugees. It is a time to reflect on the human condition and to promote the dignity and rights of all people.

世界移住者及び難民の日
世界移住者及び難民の日は、毎年9月の第二日曜日に開催され、移住者及び難民のニーズと懸念に焦点を当て、人間の尊厳と権利を促進する機会です。

第20回 インターナショナルデー開催

9月22日に行われるインターナショナルデーの準備が始まっています。今年のインターナショナルデーのミサは、普段、各教会で行われる国際ミサを念頭において準備しようということになりました。

このところ続いていた、ミサの聖歌を各言語のグループごとに分担して、それぞれのグループが割り当てられた部分を歌うというやり方から、なるべく会衆全員で聖歌を歌うようにするというのが最も目立った変更かと思います。これは様々な国際ミサの機会にみんなが共通に歌える聖歌が増えていったら素晴らしいという希望に基づいています。聖歌を共に歌うことは共に喜んでミサをささげるための大切な要素でしょう。

しかし一方で国際ミサの課題の本丸は別にあるような気がします。「カトリック教会のカテキズム」には次のようにあります。「神の民はまず生ける神のこばによって集められます。こばの宣教が諸秘跡の授与のために必要です。諸秘跡は信仰の秘跡であって、信仰はこばから生まれ、こばによって養われるからです」(1122)。国際ミサに集う皆が神のこばによって養われ、かつミサがちょうどよい長さであるためにどんな工夫ができるか、これからの課題だと思います。

外国人相談



相談日時：月～金 10:00～17:00

対応言語：日本語、英語、フィリピン語、ポルトガル語、スペイン語、イタリア語、中国語

Tel (03) 5759-1061

CTIC 運営委員(高幡教会主任司祭) 高木 健次

難民を 日本社会に あたたかく 迎え入れよう！

2011年11月、国会（衆議院・参議院）は、難民保護への国を挙げた取り組みをうたった決議を全会一致で採択しました。その中では、「難民保護の国際法及び国際的基本理念を尊重し、日本は国際的組織や難民を支援する市民団体との連携を強化しつつ、国内における包括的な庇護制度の確立、第三国定住プログラムの更なる充実に向けて邁進する」と明言されています。この決議は難民条約発効60周年を記念したものとして、世界でも例のない素晴らしい決議として国際社会から評価されています。

しかし、2012年の難民認定者は、18人。しかもこのうち法務大臣が自らの判断で難民と認定したのはわずか2人です。残りの16人のうち13人は異議申立により理由があると認められた人、3人は裁判の判決によるものでした。第三国定住プログラムは、来日希望者がいない事態になっています。難民認定申請者は急増しており、生活に困窮し、CTICを訪れる人が後を絶ちません。

特定非営利活動法人なんみんフォーラム（FRJ）は、日本の難民支援に携わっているNGO、市民団体で構成

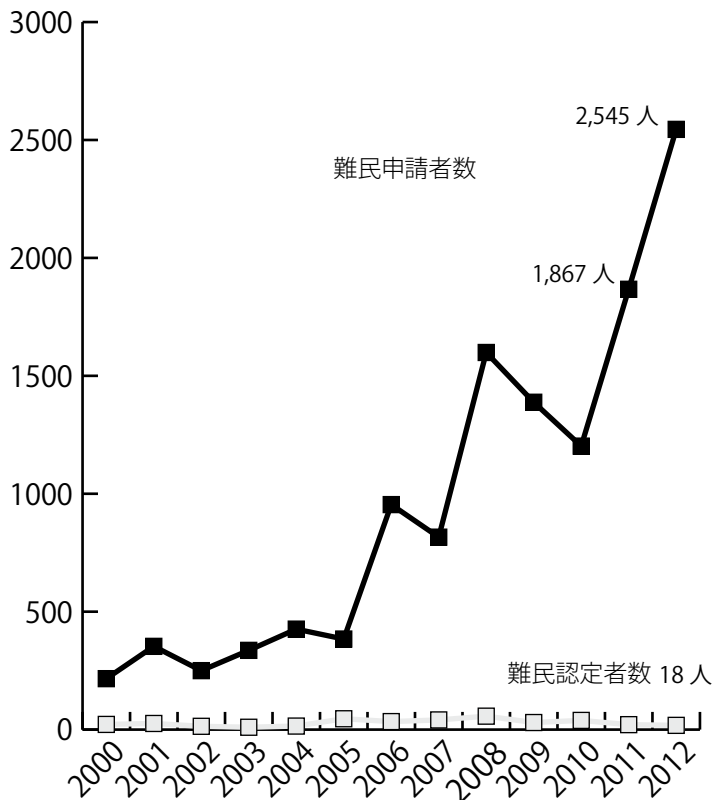
されています。CTICも運営団体として参加しています。加盟団体がこれまで日本国内での難民支援に携わってきた経験から、認定基準なども含めて、難民保護法として以下の点を法制化することが必要と考えます。（1）難民認定制度の改善、（2）庇護希望者の法的地位の保障、（3）庇護希望者の生活保障、（4）難民の社会統合、（5）公平な保護施策。また、難民自身や地方自治体、NGO・市民団体等の市民社会を含む、官民の連携を通じて、政策立案を進めることが重要だと考えます。

難民は、多様な文化を日本にもたらし、平和・人権について考えさせられる大切な存在です。難民保護法を制定することによって、日本の難民保護への取り組み、さらには「人間の安全保障」をはじめとする人道的な国際貢献は、世界で一層広く認められるようになるでしょう。すべての人が「ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する」ことを可能にするために、日本でも、国内で難民保護を実現する新たな法整備を強く望みます。

副所長 有川 憲治

特定非営利活動法人なんみんフォーラム FRJ 理事

■ 日本の難民申請者・認定者の推移



	2007	2008	2009	2010	2011	2012
難民申請者数	816	1,599	1,388	1,202	1,867	2,545
難民認定者数	41	57	30	39	21	18
人道配慮数	88	360	501	363	248	112

「難民問題に関する三者協議会」について

2012年2月10日、法務省入国管理局、日本弁護士連合会、特定非営利活動法人なんみんフォーラム（FRJ）は、難民認定手続等に関する市民団体との協力関係に係る覚書を締結し、その協議の場として「難民問題に関する三者協議会」を開催することにしました。この会議は定期的に開催され、2012年中は6回にわたり開催しました。

また、同協議会の下に作業部会を立ち上げ、空港に到着し庇護を求めた庇護希望者に対し一時庇護上陸許可等が行われる際にNGOがどのような協力が可能かを協議し、パイロットプロジェクトとして試行しました。実際に7ケース10人について、一時庇護上陸許可、仮滞在許可または仮放免許可を行う際にFRJ加盟NGOが協力し住居を確保しました。また、これらの事例では、FRJが生活面での支援を行ったほか、日本弁護士連合会と協力して法的アドバイスを提供しました。

同作業部会は2012年中に8回、2013年に1回開催され、上記プロジェクトのほか、空港や地方入国管理局において難民認定手続やUNHCR・支援団体の連絡先を周知する方法についても話し合い、なんみんフォーラム作成のポスターの掲示、リーフレットの配布について意見交換を行いました。

これら作業部会における検討結果は、三者協議会に報告され、成果として確認されました。今後も引き続き、同協議会において難民問題に関する意見交換等を行う予定です。

2013年6月 特定非営利活動法人なんみんフォーラム（FRJ）

カトリック五井教会（千葉・市原市）

出張・外国人相談会

4月14日に、五井教会で行政書士の森口秋雄先生をお迎えし、「外国人相談会」を開催しました。永住許可申請、在留資格変更、在留特別許可、在留資格認定許可などの在留資格についての問題や役所での手続きに関する問題など、2時間半の間に10組もの相談が寄せられました。相談の中には、専門家でなければ解決できない困難なケースも含まれており、それらについては弁護士などと協力して、現在も対応にあたっています。また、当日にできなかった相談が、後日、電話や訪問で寄せられています。誰にも相談できずに過ごして来た問題を相談し、解決に導くきっかけを与える「小教区での訪問相談会」を、今後も継続していきたいと思っています。

また、7月には茂原教会のフィリピン人コミュニティーのために「現実からみる労働法勉強会」を開催します。労働法を一から説明するのではなく、現実の生活の中で繰り返される「職探し」から出発し、どういう点に気を付けることが大切なのかをわかりやすく説明する予定です。現在、台本書きに追われております。

今後も小教区やコミュニティーで、「相談会」や「勉強会」を開催する予定ですので、希望される方はCTICまでご連絡ください。（大迫 こそえ）



赤羽フィリピン人共同体

ビシータ・イグレスΙΑ



フィリピンでは聖木曜日にビシータ・イグレスΙΑ（教会訪問）と呼ばれる伝統的な習慣があり、グループや家族で7つの教会を訪問します。キリスト者への迫害が終わりを告げてから最初に建てられた7つのバシリカ聖堂を人々が訪れたローマでの古い習慣からきたものです。

赤羽フィリピン人共同体は、日本で「ビシータ・イグレスΙΑ」をすでに5年間行ってきました。

今年の「ビシータ・イグレスΙΑ」は、東京教区の歴史的な教会を巡りました。東京カテドラル関口教会聖マリア大聖堂、聖母病院、神田教会、浅草教会、本所教会、築地教会、高輪教会を訪問し「十字架の道行」の祈りを唱えました。東京のカトリック教会の歴史を知る良い機会となりました。また、江戸時代、迫害の中で、信仰を守り抜いた大勢の日本人がいたことを知り、深い感銘をうけました。

（信徒宣教者、マリア ソリダッド ベレス）

東京韓人教会・中高生との交流

共同体訪問・ユース交流会

東京教区では様々な言語でのミサが行われています。言語は違っても同じ主に賛美と感謝を捧げるミサです。CTIC ユース・グループでは、異なる国籍や文化の若者が「共に祈り、共に歩む」活動を進めています。各国語で行われているミサに参加し、共に祈りその共同体の青年の皆さんと親交を深めるユース交流会です。

今回、4月27日に東京韓人教会を訪問しました。第4土曜日に中高生のミサが東京カテドラル小聖堂で行われています。ミサの侍者はもちろん、朗読・共同祈願・奉納など、すべて中高生で行われています。驚いたのは聖歌隊バンドです。各々が得意な楽器を担当し聖歌を演奏していました。

ミサに集まった40人くらいの中高生とその親たちが、私たちが温かく迎えてくださいました。ミサの終わりに李海旭（イ・ヘウック）神父様から温かい歓迎のご挨拶とご紹介を頂き、その後のティータイムで青年達も親交を深めました。

参加したメンバーからは「言葉がわからなかったけど、一緒に祈る体験はよかった。韓国の友達もできてうれしい。」と語ってくれました。CTICではこのような機会を通して、異なる国籍や文化のカトリック青年が、お互いの理解を深め、同じ信仰を深め合う仲間づくりができることを願っています。（中村 潔）



ミサ曲の演奏をする
韓国教会の青年バンド

難民フリーマーケット開催中!

毎週木曜日 11:30~13:00 目黒教会にて

CTICでは、生活に困窮している難民のために様々な取組みを行っていますが、この度、難民による自立支援のためのフリーマーケットを開催することになりました。下記のことを募集しています。

■ バザー用品としてご提供いただきたいもの (新品、もしくは程度のいい物)

食器、洗剤、せっけん、くつ、かばん、タオル、衣類、雑貨、台所用品、手芸用品、手作り品、えほん、CD、アクセサリ、おもちゃ等。

*売上金は、難民の住居費、生活費になります。

*準備、販売にご協力頂けるボランティアも募集しています。ご協力をお願いいたします。



フィリピン巡礼ツアー 2013

パナイ島 (イロイロ)、ギマラス島、ボラカイ島

日程: 2013年11月上旬予定 (5泊6日)

費用: 15万円 (往復の航空券、宿泊費、食費、移動費)

*詳細は、パンフレットをメール info@ctic.jp でご請求下さい。



ニーハオ 你好、 チュ チュンセ 朱 春瑟です!

4月からCTICで働かせて頂くことになりました。台湾生まれです。スペインで、生活した経験もあります。イエズス会・中国センターでは13年間お世話になりました。

困難な状況にある、外国人のために、少しでも力になれたらと思います。

難民、移住者、高齢者など、誰でも気軽に集えるコミュニティ・カフェをつくるのが夢です。皆様のお力をお貸し下さい!



■ カトリック東京国際センター CTIC とは?

日本に滞在する外国人をサポートするために、東京大司教区創立100周年記念事業として、1990年に設立されました。

■ 移住者、難民と共に

困難を抱える外国人を援助し、日本社会に適応し、お互いに成長できる関係作りをサポートします。

■ カトリック教会共同体と共に

日本カトリック教会が、外国人と共に生き、その役割や課題を分かち合い、同じ信仰を共有する共同体となるようサポートします。

■ 日本社会と共に

国籍・文化・宗教・社会的地位の如何に関らず基本的人権が尊重され、多文化共生による豊かな日本社会の実現のために社会に働きかけます。

● 外国人の自立サポート

生活相談 / 労働相談 / 難民支援

活動内容

● 収容されている外国人のサポート

東京入国管理局 (東京都港区)
東日本入国管理センター (茨城県牛久市) へ訪問

● 外国人の信仰サポート

信仰教育支援 / 教会・外国人共同体との連携
信仰教育教材開発

● 外国人支援ネットワークへの参加、協力

日本カトリック難民移住移動者委員会
移住労働者と連帯する全国ネットワーク
特定非営利活動法人なんみんフォーラム FRJ 他

《郵便振替》 00130-2-710756
カトリック東京国際センター